

科目名	社会思想史特講	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>大量破壊兵器や環境破壊、また、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、現代技術がもたらした深刻な一面を目にするとき、人間や生命、自然や社会のすべてを一律に、技術的に処理可能な機能と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすこと（「省察力」）の必要性に気づかされてきます。</p> <p>技術の世界に生きている、この現代的状況を見据えながら（「世界の現状を理解し、説明する力」）、日常生活や科学知の自明な前提を越えて、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおす哲学的な視野（「論理的・批判的思考力」）を育んでゆくことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 日常の自明性の問題点を根本から見つめなおし（「省察力」）、既成の価値や観点に縛られずに様々な立場や視点を比較・検討する「態度・習慣」を身につけることで、「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」を養うことを目標とします。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 技術社会、芸術を含めた文化、自然、その中で生きる人間とは何か、そのあり方についての哲学的な問いを深めることで、現代社会の様々な問題の根拠を意識し、その解決の可能性を多角的な視野から提案できるようになること（「問題発見・解決力」）。こうして、個々の問題について、特定の見方に縛られずに様々な見方を比較・検討しながら、それを調整し、自らの考えをうまく伝えることができる能力（「コミュニケーション力」）を身につけることが目標です。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 基本教材を丁寧に読み解きながら、日常生活や科学知の自明性のありよう、それがなりたつ根拠を丹念に考察してゆきます。1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読解と解釈に25時間以上、manaba folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とします。</p>		
学修方略 （方法）	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆきます。</p> <p>【学修方略（LS）】 教材を丁寧に読み進めてゆくことが大前提になります。教材は比較的短めのものでありますが、決してそう簡単に理解できるようなものではないように思われますので、できるだけ早めに読み進めることと、細かな疑問点よりも、まずは、レポートの課題を見据えたうえで、全体の流れをつかむ読み方をするをお勧めします。流れやつながりに疑問が生じた場合には、そのままにせず、参考図書を利用するなどして、話のつながりやその疑問点をそのつど整理していただきます（「挑戦力」）。その作業を繰り返してゆくことで、理解した内容（つながり）と、それにたいする自分の見解や疑問をレポートとしてまとめてください。</p>		
スケジュール	<p>原則として基本教材1のレポートは前期、基本教材2は後期での提出を望ましいものとします。少なくとも一回以上の添削指導を経ていることを条件としますので、最初の提出は、遅くとも前期分は8月中旬までに、後期分は12月中旬までに済ませるよう心掛けてください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	教材の文脈を理解し、レポートの課題に応じる形で自分の考えを自分の言葉で適切に表現できているかどうかを評価します。
	平常評価	30%	一回以上の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているかどうかを評価します。
履修者への要望	<p>教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって始めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます（「論理的・批判的思考力」「問題発見・解決力」）。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『技術への問い』（平凡社ライブラリー，2013年） ISBN:978-4-582-76800-8 1,500円＋税
	古代ギリシアのテクネーという言葉に含まれる意味（技術だけでなく芸術や自然の営みなども含む）を説き明かし、それを現代の産業社会における技術と対比させることで、現代技術のありようの一面性が示されてゆきます。そこから、現代社会のこの一面性にともなう危険とそれが予兆する歴史的な変化の到来を示唆しようとする試みです。
参考図書	木田元『対訳 技術の正体』（デコ，2013年）ISBN:978-4-906905-07-2 1,100円＋税 加藤尚武編著『ハイデガーの技術論』（理想社，2003年）ISBN:978-4-650-10532-3 2,000円＋税
履修上のポイント	当教材は、5本の講演論文を収めた論文集ですが、レポートの課題に直接該当するのは、「技術への問い」（7ページ～）と「科学と省察」（67ページ～）です。この二つを中心に読み進めてください。その他のものは参考資料として利用してください。「技術」等の言葉の古代ギリシア的な意味と現代的な意味の違いに留意しながら、その相違を整理することが大事な作業になります。
レポート課題 1	技術（道具）と真理（アレーティア）との関係について、ポイエシスと集・立（Ge-stell）という点から論説してください。 留意点： 技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。
レポート課題 2	技術は科学の応用ではなく、科学が技術の本質に基づくとはどういうことか、論説してください。 留意点： 所収論文「技術への問い」での本質と類との意味の違いをおさえてください。所収論文「科学と省察」「伝承された言語と技術的な言語」での現実的なものや理論についての考察からも論説可能です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『芸術作品の根源』（平凡社ライブラリー，2008年） ISBN:978-4-582-76645-5 1300円＋税
	芸術作品の根源を問うために、物とは何か、道具とは何かを考察し、一つの道具であるはずの農婦の靴、それを描いた一枚の絵の中から、物や道具の真相が立ち現れてくる働きが探りだされてゆきます。そこに芸術作品のなりたちを見いだすことで、日常生活に埋もれてしまっているはずの、道具的なあり方とは違った真理のありようを問いなおしてゆく試みです。
参考図書	渡邊二郎『芸術の哲学』（ちくま学芸文庫，1998年）ISBN:4-480-08426-6 1,300円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年）ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 木田元『哲学と反哲学』（岩波現代文庫，2004年）ISBN:978-4-00-600127-8 1,180円＋税
履修上のポイント	物、道具、芸術作品、真理、世界、大地など、鍵となる言葉について、普通の意味とは違ったどのような意味が込められているのかを理解、整理してゆくことが大事な作業になります。細かな論点よりも、議論全体の流れをつかむことを優先してください。
レポート課題 1	芸術作品に見出される道具の道具存在や物的な現実性とはどういうことか、論説してください。 留意点： 支配的な物概念の不十分さ、道具の有用性と信頼性との意味の違いをおさえてください。
レポート課題 2	芸術作品と真理（アレーティア）や詩作との関係について論説してください。 留意点： 芸術と美術との違い、作品と道具との違い、製造と創作との違いなどを整理し、世界とは、大地とは、その闘争とはどういうことかをおさえてください。